100%

大腿骨近位部骨折手術患者に対する早期リハビリテーション実施率

Process

測定値の定義・計算方法

分子：　分母のうち、手術当日から数えて4日以内にリハビリテーションを実施した患者数

分母：　大腿骨近位部骨折で手術を施行した退院患者数

活動のきっかけ

英国NICEの臨床ガイドラインにおいて、大腿骨近位部骨折の術後24時間以内の離床が、その後の機能予後に影響を及ぼすことが示唆されており、術後患者に対する早期リハビリテーションの介入が推奨されている。従って、術後患者に対して早期リハビリテーションを開始する体制の構築が必要であり、他病院とのベンチマークを行い、実施体制の構築に向けて取り組む必要がある。

改善活動部門

- リハビリテーション部

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
• 大腿骨近位部骨折手術患者179件に対し、早期リハビリテーション実施率100%を達成し、目標値95%を上回った。 • 年間を通して各月100%を維持しており、対象患者を確実に早期リハビリテーションへつなげる体制が定着している。 • 医師の診察からリハビリテーション処方、術後早期からの介入までの連携体制を継続することができた。	• 早期リハビリテーションの実施体制は定着しており、実施率については高い水準を維持できている。 • 今後は実施率100%を維持するとともに、より早期からの介入状況についても確認し、早期リハビリテーション提供体制の質向上につなげていく。